

# 関節モビライゼーション臨床報告 5月度 (2018)

## 【足根骨】

患者氏名	日付	施術部位	効果	詳細
R.Nさん 92歳 女性	5/8	足	足の痺れ 重さだるさ ○	足関節は底屈位で足甲の可動性が著しい。立位では常につま先荷重で下肢全体に力が入り、バランスは不安定。足を擦るように歩いている。施術後に足に軽快感があり、余分な力が抜けていました。
	5/12	足	足の痺れ 重さだるさ ○	前回施術後しばらくは足の軽快感があり、とても歩きやすかったが、足の強張りが再度出現していて、足先は全て痺れがあり。施術後に足底の接地感が改善し、足が軽くなった実感があり。
	5/19	足	足の痺れ 重さだるさ ○	足先の痺れ、疼痛、おもだるさが共に施術後には軽快しています。立位での安定性が増して、つかまりながらなら片足立ちが可能になっています。
	5/29	足 頸部	足の痺れ 重さだるさ ○	足のおもだるさが、徐々に減少している実感があるそうです。施術後しばらくすると重だるさが出現しますが、その程度が徐々に軽くなっているそうです。
	5/30	足 頸部	足の痺れ 重さだるさ ○	両足先の痺れ、おもだるさは依然としてあるものの、程度は緩和してきて、以前よりも歩行がスムーズになったそうです。施術に間が空くと再び状態が悪化してしまうようです。
A.Yさん 91歳 男性	5/8	足 頸部	下肢の重 だるさ ○	下肢の、特に大腿から下腿にかけての重だるさは非常に強く訴えています。足関節以下の可動不足については、全く自覚ないようです。施術後に下肢が軽くなったが、足については実感なし。
	5/15	足 頸部	下肢の重 だるさ ○	前回よりやや足の緊張少ない。施術後の足の可動性は他覚では所見ありますが、本人実感はなし。ただし、立位での下肢の爽快感はやや感じるそうです。
	5/22	足 頸部	下肢の重 だるさ △	下肢に非常に強い緊張がみられ、足の可動性は著しく乏しい状態。施術後に可動性の改善みられるも、本人実感は全くないようです。
K.Yさん 71歳 女性	5/11	足 仙腸	腰痛 ○	腰痛に比例して足の重だるさを自覚。左右足甲の可動不足の部位に施術時に痛みがありましたが、すぐに軽減。立位が安定し、足の力が抜けて、下肢に爽快感があるとおっしゃっていました。
	5/15	足 仙腸	腰痛 ○	立位姿勢は良好で、下肢の重だるさ、腰痛共に少ない状態です。足の可動性はやや乏しくなりましたが、足施術後に接地感が改善して、力を入れずに立ってられるようになっていました。
S.Oさん 91歳 女性	5/15	足	腰痛 ○	立位で右へ傾く姿勢が、足の施術後に減少し、足底の接地感が改善。ふわふわしていた足が、しっかりと地面に吸い付いているように安定している感覚とのこと。立位での下腿の強張りも減少しました。

○：一定の効果、実感あり      2→1：施術前後の痛みの変化（本人にとっての最大痛値を5に設定）

△：効果の本人実感があまりない

## その他 臨床報告

### 「効果がみられなかった症例」

他覚的所見で言えば、今回の足根骨モビライゼーション後に改善がみられなかった症例はありませんでした。施術後には、必ず足根骨の可動性の改善がみられました。しかし、患者様本人の実感を伴っていない場合もあり、それを改善したとみるかは疑問の残るところです。

ほとんどの症例では、患者様自身の改善実感を伴うもので「足が軽くなった」「痛み、痺れが少なくなった」「バランスがいい」「立ちやすい、歩きやすい」など、様々な改善実感がありました。

他覚的には改善がみられるものの、改善実感がない症例については、患者様自身の感覚鈍麻が影響しているか、足根骨の可動性が症状に影響していないか。のいずれかと考えられます。

## 考察

今回の足根骨モビライゼーションの最大の利点は、非常に広範な患者に対して対象として実施できることにあると考えます。腰痛、下肢痛、立位不安定、全身の強張り、痺れなど、仮に直接的に足根骨の可動性が影響していなかったとしても、立位状態での身体の基盤となる足の状態を改善することは、様々な症状に影響する可能性があり、さらに基本的な動作である歩行への影響はとても大きいと考えられます。

今回の施術対象者でも、腰痛症例がありました。足根骨のみを施術した前後に、立位で腰痛の程度を比較しましたが、腰痛が軽くなったと実感されていました。これは下肢全体の過剰な力が抜けたことによる影響と考えられます。他の症例についてもさらに検証を進めていきます。

即効性があり、患者本人の改善実感を伴いやすい。さらに広範な症例に対して施術できる。これらの利点は、全体へ技術を導入するにあたり、非常に有用であると考えられます。今回の検証においては、症例に対するデメリットはみられませんでした。施術においては、手関節ほどではないにしても、足根という狭い範囲に存在するいくつもの骨を触知できる技術を要するため、一定程度の練度が必要であることがこの技術の困難な部分として挙げられます。

2018.5.31 酒見